

第1章

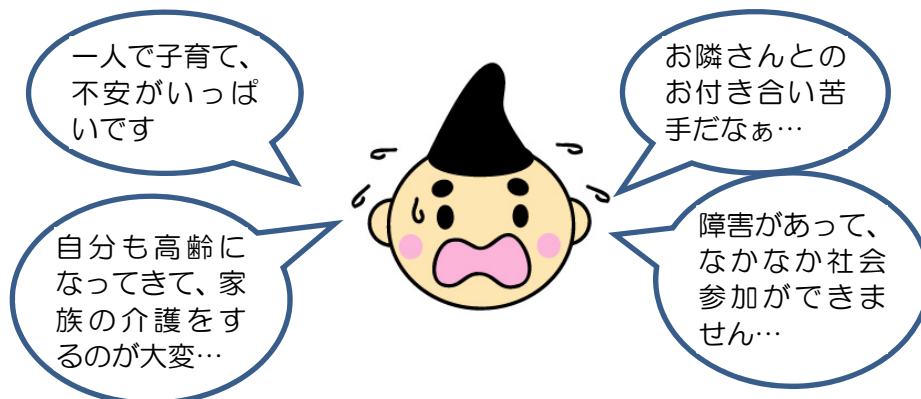
地区を見守るチームの輪 ～コーディネーター配置事業をご紹介します～

福祉の専門支援機関や地区内の活動組織・団体による地域活動
などが協力し合うことにより…



1. いま、茅ヶ崎市では…（事業背景）

核家族化が進み、介護疲れ、育児ストレス、引きこもりなど、地域の中で孤立しやすい状況にある課題や公的制度のはざ間にある課題が増えています。

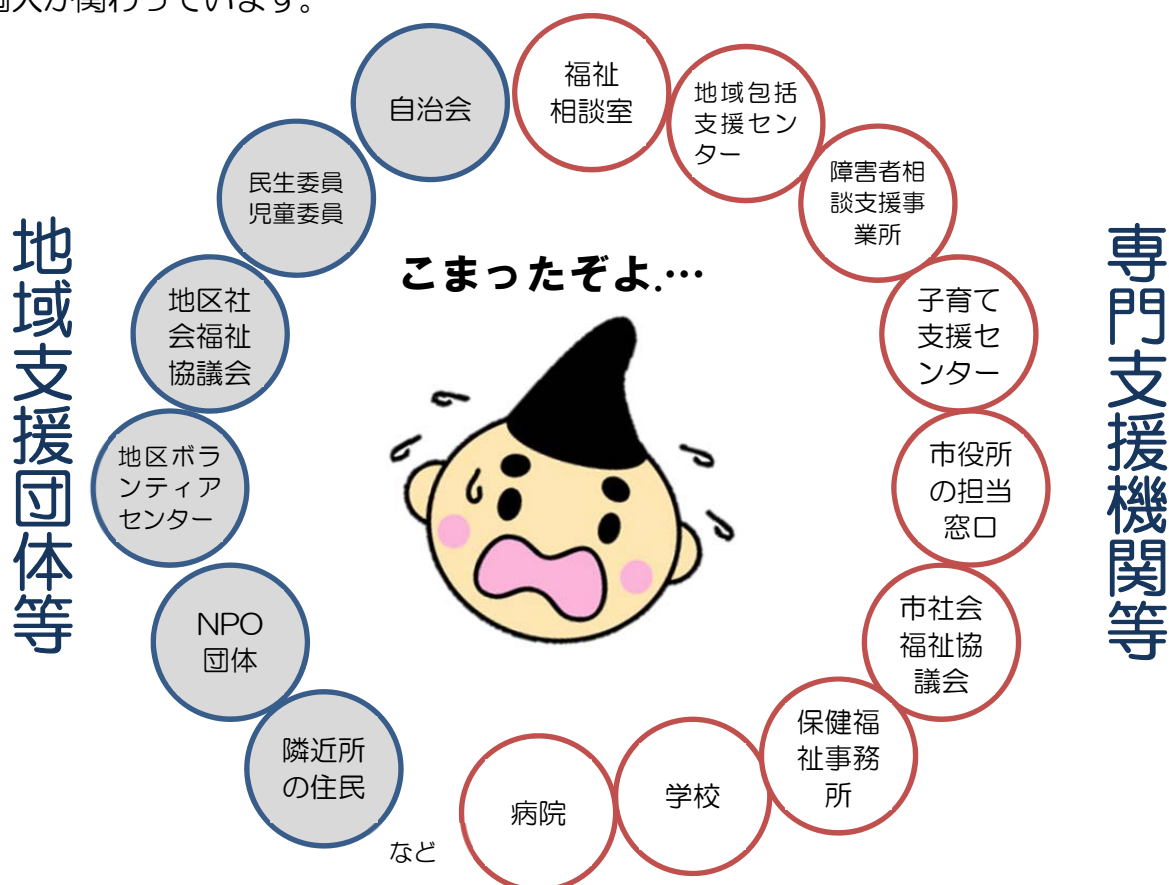


このような問題を解決するには、

地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、子育て支援センターなど各専門支援機関が相談内容に応じて、対応しています。

また、自治会、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、地区ボランティアセンターなど、市民のみなさんの協力が不可欠です。

このように、困りごとを抱える相談者のまわりには、さまざまな支援機関や団体、個人が関わっています。



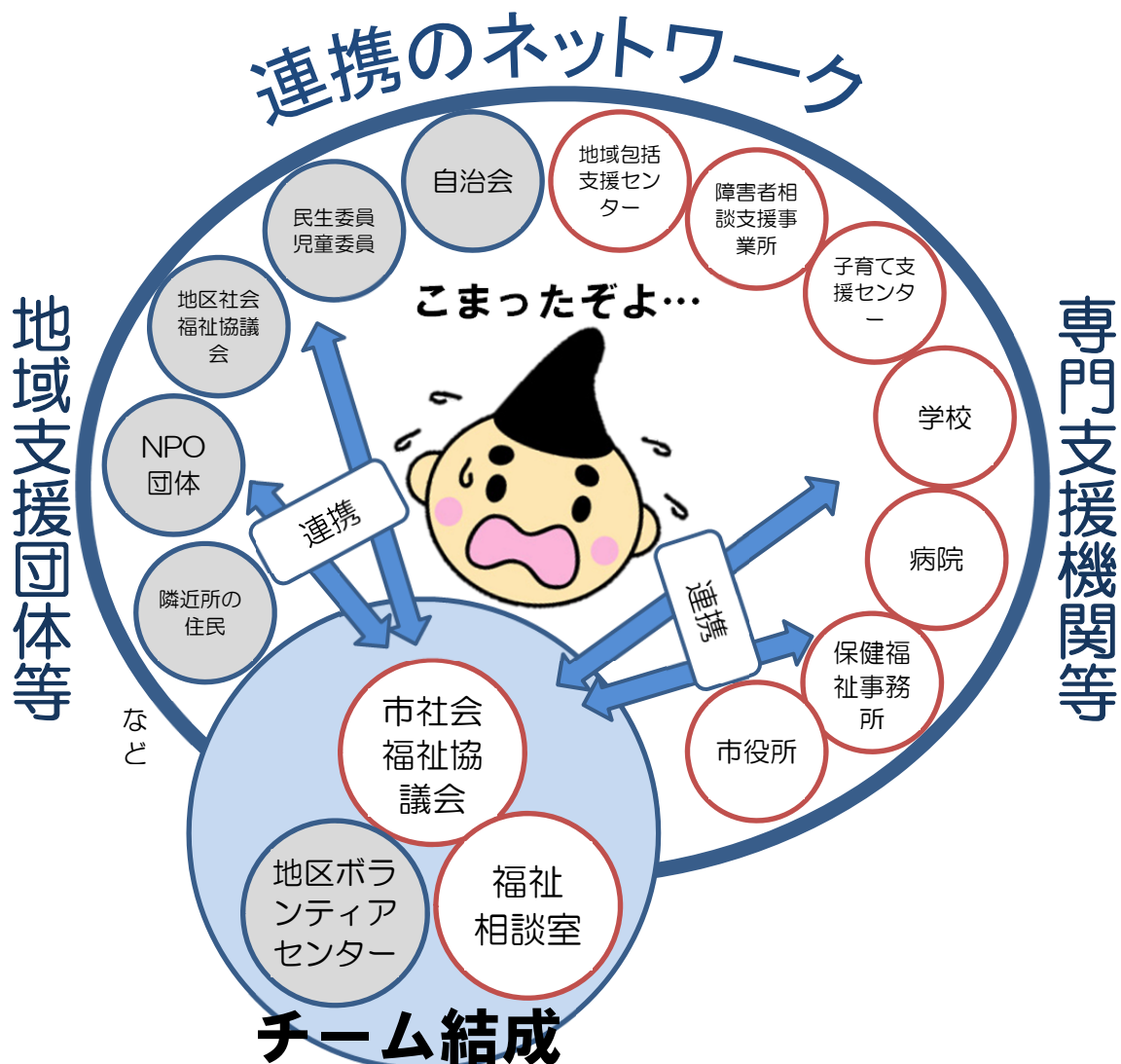
しかし、分野別の相談窓口はたくさんあっても、そこだけでは対応が困難な複合的な課題をもつ家庭が増え、各相談窓口が専門性を活かしながら連携する仕組みが求められてきました。

その一方で、現在市内12地区全てに整備されている地区ボランティアセンターは日常生活支援（草取り、ゴミ出しなど）を主たる活動としていますが、相談機能や情報発信機能を兼ね備えた地域福祉活動の拠点としてのさらなる発展が期待されている状況がありました。

市は、こうした状況をふまえ、地域全体で支える仕組みづくりをめざし、地域のボランティア活動の拠点である地区ボランティアセンターを中心に、地区のさまざまな生活課題を受け付け、地域のさまざまな団体が協力し合って解決につないでいく体制を整備することを目的に、第2期茅ヶ崎市地域福祉計画の重点プロジェクトとして、コーディネーター配置事業を実施することとしました。

【平成23年2月～平成25年9月、浜須賀地区と湘北地区でモデル事業として実施】

具体的には、茅ヶ崎市社会福祉協議会、地区ボランティアセンター、福祉相談室の3つの団体からコーディネーターを選出します。その3者がチームを結成し、「地域のつなぎ役」として、地域のさまざまな団体と協力しながら地域の課題に取り組んでいます。 *資料編 68 ページ参照

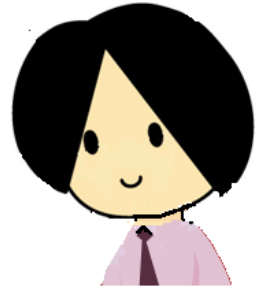


2. 地区支援チームの活動（事業概要）

（１）３種のコーディネーターのチーム結成

【３種のコーディネーター】

① コミュニティーソーシャルワーカー（CSW） （茅ヶ崎市社会福祉協議会の地区担当職員）



○事業の中心的な役割を担う。

○積極的に地区に出向き、地区活動コーディネーターと地区支援コーディネーター、他の専門機関や支援者と連携して、地域住民の課題解決に向けて調整を図る。

＊茅ヶ崎市社会福祉協議会会長が選出し、市に報告。

② 地区活動コーディネーター （地区ボランティアセンターのスタッフ）



○地区に寄せられるあらゆる相談を受け止め、地区では対応困難な住民からの相談について、CSWや地区支援コーディネーターに相談しながら自分たちでできる対応方法を検討する。

○CSWや地区支援コーディネーターと連携して、制度のはざ間にある課題の解決手段を検討する。

＊地区社会福祉協議会会長が選出し、市に報告。

③ 地区支援コーディネーター （福祉相談室の福祉相談支援員）



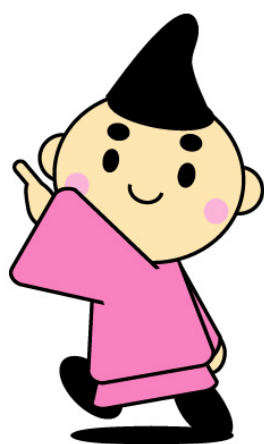
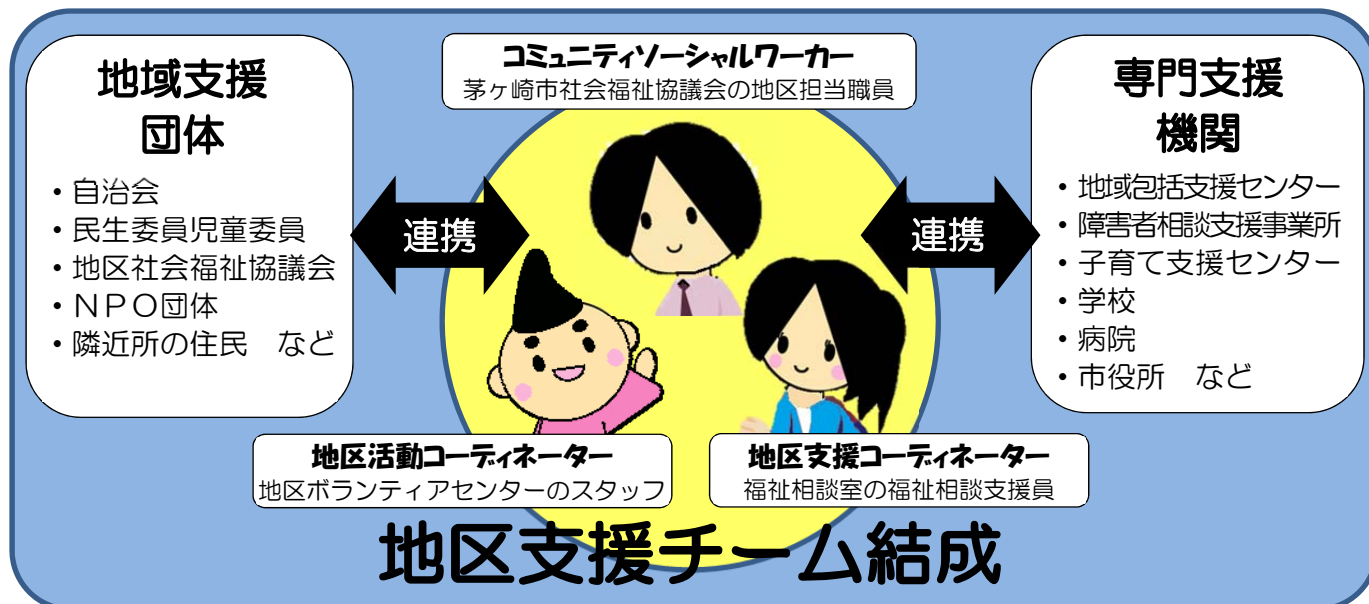
○地区に寄せられるあらゆる相談について、専門的な見地からCSWや地区活動コーディネーターをサポートする役割を担う。

○CSWや地区活動コーディネーターと連携して、制度のはざ間にある課題の解決手段を検討する。

＊福祉相談室を運営する法人の代表者が市に報告。

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を地区へ配置します。また、地区内の地区ボランティアセンターと福祉相談室からコーディネーターを選出し、その3者が地区支援チームを結成します。

地区支援チームは、地区ボランティアセンターを起点に受け付けたさまざまな相談について、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を中心に、課題解決に向けて取り組んでいます。



＊第2期茅ヶ崎市地域福祉計画では、コーディネーターを2種類位置付けています。 ＊資料編 67 ページ参照

① コーディネーター（専門員）

生活課題を抱えて困っている人の課題解決に向け、専門的な見地からサポートし、支援につなげていく役割

② コーディネーター（けん引役）

生活課題を抱えて困っている人が「ちょっと悩みを聞いて欲しい」というときに身近に感じられる存在となり、地域住民として地域福祉をけん引していく役割。

コーディネーター配置事業の3種のコーディネーターについても、それぞれ求められる役割は違います。

コミュニティソーシャルワーカー（茅ヶ崎市社会福祉協議会の地区担当職員）と地区支援コーディネーター（福祉相談室の福祉相談支援員）については、①コーディネーター（専門員）の役割を担っていただきます。

地区活動コーディネーター（地区ボランティアセンターのスタッフ）については、②コーディネーター（けん引役）の役割を担っていただきます。

（２）福祉なんでも相談窓口の設置

草取り、ゴミ出しなど日常のちょっとした困りごとに対応する地区ボランティアセンターの相談日とは別に、地域住民の悩みごとなどさまざまな相談に対応する「福祉なんでも相談窓口」を設置しています。「福祉なんでも相談窓口」は地区活動コーディネーターが対応しています。

【浜須賀地区】 毎月第１水曜日
9:30～12:00
【湘北地区】 毎月第２火曜日
10:00～12:00



＊相談日は、各地区月１日ですが、それぞれの活動範囲の中で随時相談を受け付けています。



たとえば、こんな相談もありました。

美容室より

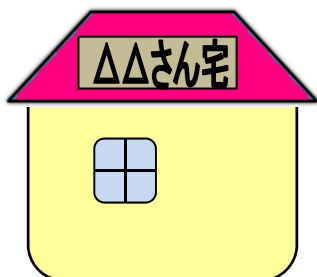


〇〇さん、近所に住まれている△△さんからお店に予約キャンセルの電話が入ったんだけど、少し様子がおかしかったから、見てきてもらえないかしら…？



地区活動コーディネーター
（地区ボラセン）

かけつけると…



自宅内で倒れているのを発見。救急車を呼び、一命をとりとめました。

地区の住民だからこそあるネットワークによって、解決に結びつくこともあります。

（３）地区支援ネットワーク会議

地区ボランティアセンター等で把握した地域住民が抱える生活課題のうち、対応が困難なケースにかかる情報を共有すること、また、課題を解決するためのサービスを検討すること等を目的に、地区支援チームのほか関係機関を交えた地区支援ネットワーク会議を開催しています。

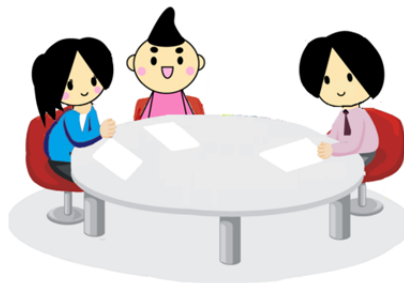
【浜須賀地区】

開催日：毎月第１水曜日 13:30～15:30

構成員：地区支援チーム

民生委員児童委員協議会会長（H25.1～）

保健福祉課職員



【 湘北地区 】

開催日：毎月第４火曜日 10:00～12:00

構成員：地区支援チーム

地域包括支援センター職員

保健福祉課職員

茅ヶ崎市職員も参加



※状況に応じて地区支援ネットワーク会議へ関係者の出席をお願いしています。



ある日の地区支援ネットワーク会議の様子





地区支援ネットワーク会議

～湘北地区の事例から～

地区支援ネットワーク会議は、単なる情報共有の場ではなく、顔の見える関係づくりの場でもあります。地域福祉の推進には、いろいろな機関が得意分野を活かし、補いながら進めていくことが必要です。

事業開始当初のある日の地区支援ネットワーク会議

頭の中では、、、

元気な方なので、今後介護保険の利用は当分ないし、地区ボラセンで対応できないだろうか…
地区ボラセンはどこまでやってくれるんだろう…

奥さんが入院する1週間、朝食のお届けをお願いしますか？

包括支援センターあかね
(福祉相談室あかね)

頭の中では、、、

毎日朝食を準備して（作って）届けるのは、ボランティアの範囲では負担が大きいし…
なんで介護保険でやらないのかな…

ボランティアでは難しいので介護保険の中でなんとかしてください。

湘北地区ボラセン

結局支援につながらず…

ネットワーク会議で口論に…

最初からできないって言ったじゃないですか。

前日を買って届けるのもよかったんですか？
毎朝作って届けなきゃって思ったら、無理だし…ちゃんと条件を説明してくれないと…

包括支援センターあかね
(福祉相談室あかね)

湘北地区ボラセン

ネットワーク会議で振り返りを行い…

意向がきちんと伝わっていなかったんですね。
今回は支援にはつながらなかったけど、この会議でお互いどこまで支援ができるか確認ができたので、次回に活かしましょう。

伝え方が悪くてごめんなさい

きちんと確認せず、勘違いしてしまってごめんなさい

包括支援センターあかね
(福祉相談室あかね)

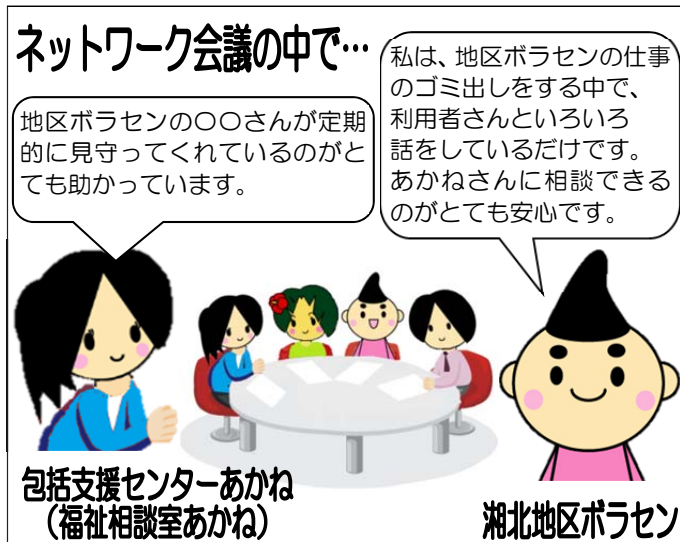
CSW

湘北地区ボラセン

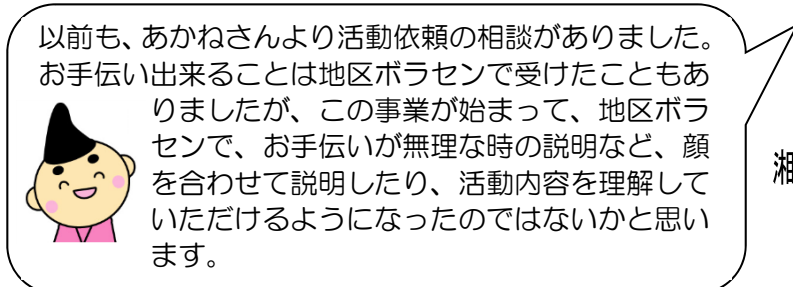
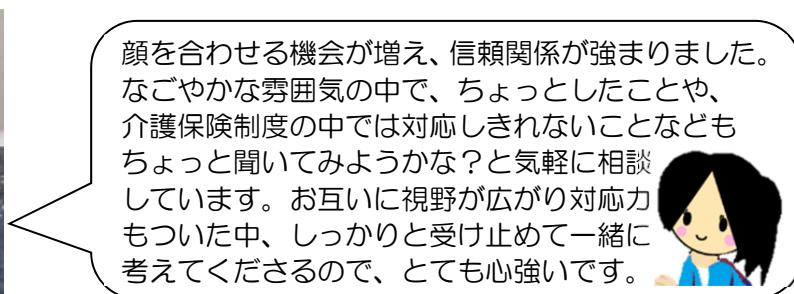
現在の地区支援ネットワーク会議



会議の結果地区ボラセンでも支援することに…



福祉相談室あかね
阿部さん



湘北地区ボランティアセンター
磯野さん

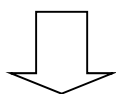


地区支援ネットワーク会議

～浜須賀地区の事例から～

日々の活動をする中で、地区内の福祉ニーズを拾い上げながら、地区支援チームは地区のためになることを検討しています。

サポートはますか（地区ボラセン）に
子育ての相談がきた
⇒地区ボラセンで
子育て支援のボランティア
を検討してもいいのでは？



サロンはますかに来ている
ママたちに支援をしてほしい
というニーズがあるか
アンケートをとってみよう！



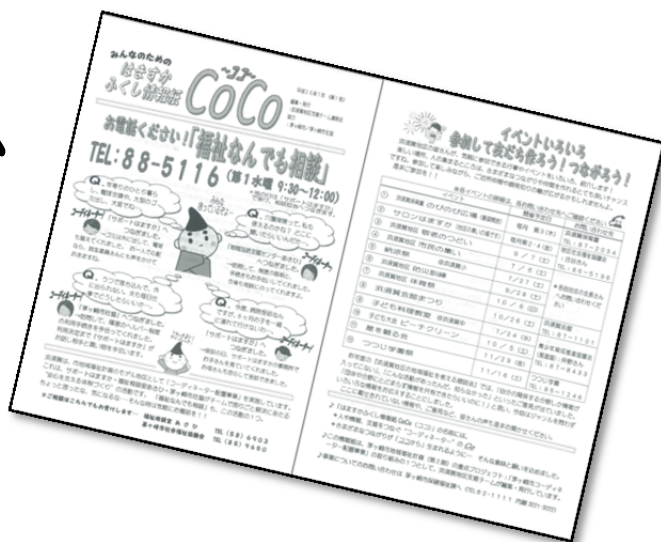
※サロンはますか…浜須賀地区内のサロン

毎年、「地域福祉を考える地区懇談会」
を地区社協を中心に開催しているが、
地区支援チームとして協力して一緒に
開催したらどうか？
⇒地区懇談会パート4（23年度）の企画
（子育てをテーマに開催）



※「地域福祉を考える地区懇談会」は平成20
年度より、市の事業として地区社協に依頼をし
て開催しています。

地区内の福祉ニーズを
拾い上げ、取り組みを実施し、
実施した取り組みを
振り返りながら、
地区支援チームは
地区のためになることを
検討しています



地区情報紙の発行
（はますかふくし情報紙 CoCo）

地区内の情報を集約し、
情報を定期的に発信して
いくことにしよう!!

*資料編93ページ参照





地区懇談会パート4にて 出された課題

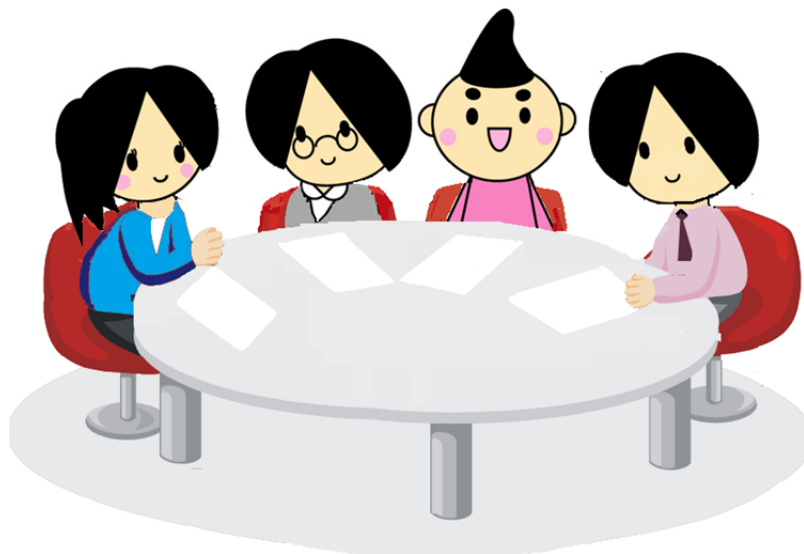
浜須賀保育園の「のびのび広場」が
地域であまり利用されていない!!



※のびのび広場…地域にお住まいの親子に対し、
保育士が遊び場を提供する中
で、育児相談にのっています。

地域と保育園の連携

「のびのび広場」に地区のボラ
ンティアが参加。(お茶やお菓子
の提供、赤ちゃんの相手や、
ママの相談へのアドバイス等)



地区懇談会パート4を受け、
具体的に取り組みに移してきた。
まだまだ検討課題もあるため、
継続的な検討が必要!!



地区懇談会パート5（24年度）も子育てを
テーマにやってみよう!!
⇒地区懇談会パート5の企画

地区懇談会パート5にて 出された課題

地区内の情報はたくさんあるが、
縦割りでわかりにくい!!



3. コーディネーターの育成(研修体制)

(1) ボランティア向けの研修

○コーディネーターの相談支援技能向上研修(県・市共催)

地区活動コーディネーター(地区ボラセン)の相談支援技能の向上を目的に開催。
(その他、地域福祉活動をされている方も対象としている)

<平成22年度>

コーディネーター配置事業を開始するにあたり、①相談の基本、②傾聴について、
③専門支援機関との連携について をテーマに研修を開催。

開催日		内容
11月19日	第1回	テーマ：地域福祉コーディネーターと相談の基本 講師：神奈川県社会福祉協議会 地域福祉アドバイザー 島村俊夫氏
12月8日	第2回	テーマ：専門相談機関との連携の仕方① 講師：地域包括支援センター青空 山崎宏和氏 地域包括支援センターすみれ 鈴木敦之氏 茅ヶ崎駅北口子育て支援センター 子育て支援アドバイザー 宮武泰子氏
12月15日	第3回	テーマ：傾聴について 講師：NPO法人 シニアライフセラピー研究所 理事長 鈴木茂氏 副理事長 横川敬久氏
12月16日	第4回	テーマ：専門相談機関との連携の仕方② 講師：障害者生活支援センター 河野香代子氏 生活相談室 とれいん 坂間弘幸氏 地域生活支援センター 元町の家 塩原真澄氏

<平成23年度>

相談を受け、記録し、事例検討を行うという相談業務の基本的な流れを学ぶことを目的に研修を開催。

開催日		内容
11月10日	第1回	テーマ：相談業務及びケース記録の作成について 講師：KCN(かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク) 事務局次長・理事 相馬妙子氏
11月24日 11月25日 (2日間 連続講座)	第2回	テーマ：傾聴について 講師：NPO法人 シニアライフセラピー研究所 理事長 鈴木茂氏 副理事長 横川敬久氏
12月13日	第3回	テーマ：事例検討学習会 講師：KCN(かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク) 副理事長 岡西博一氏 事務局次長・理事 相馬妙子氏

＜平成24年度＞

事業を実施する中で、障害のある方の対応に悩むことがあることから、相談の受け方、障害の特性の理解と対応を学ぶことを目的に研修を開催。

開催日		内容
11月26日	第1回	テーマ：支援者が成長するための原則 講師：神奈川県立保健福祉大学 川村隆彦氏
11月28日	第2回	テーマ：精神障害の理解と対応 講師：地域生活支援センター 元町の家 瀬川直人氏 ピアサポーター 白木佳枝氏
12月13日	第3回	テーマ：発達障害の理解と対応 講師：神奈川県立発達障害支援センター かながわ A 吉澤宏次氏

＜平成25年度＞

ご近所パワーで地域を支えるということをテーマに、自分たちの取り組みの確認、他地区の事例を学びつつ、今後の自分たちの活動について考えることを目的に研修を開催。

開催日		内容
8月30日	第1回	テーマ：地域力を高めるためにできること 講師：横浜国際福祉専門学校 顧問 星槎大学 准教授 豊田宗裕氏
9月27日	第2回	テーマ：ご近所パワー活用術 講師：ボランティアグループ すずの会 鈴木恵子氏
11月21日	第3回	テーマ：こころサポーター養成講座 講師：茅ヶ崎市 保健福祉課 保健師 露木康雄
1月22日	第4回	テーマ：こころの病を理解しよう ～やさしいまちづくりのために～ 講師：SSTリーダー 高森信子氏



○茅ヶ崎市地域福祉関係者等研修会（市社協主催）



<平成23年度>

「個人情報の正しい取得方法、保護、活用方法」を確認し、他組織、団体等との「情報共有」を進め、「連携・協働」による課題解決を学ぶ研修を開催。

開催日	内容
3月12日	講義：情報共有による連携・協働に向けて 個人情報の適切な利用と保護／情報共有／地域福祉における連携・協働 ワーク：連携・協働に向けた情報共有のためのワークショップ （共有を前提とした個人情報の利用目的確認シート） 講師：田園調布大学人間福祉学部社会福祉学科教授 村井祐一氏

<平成24年度>

地域で相談に当たる地区社協、地区ボランティアセンター、民生委員児童委員と福祉関係機関がともに「個人情報保護」について確認し、他組織、団体との「情報共有」を進め、「連携・協働」による課題解決を学ぶ研修を開催。

開催日	内容
3月13日	講義：地域福祉の推進と個人情報保護 講師：駒澤大学 文学部社会学科 社会福祉学専攻 准教授 川上富雄氏



(2) 専門職向けの研修



○福祉相談室の福祉相談支援員研修（市主催）

福祉相談室が活動する上で、連携先となる市役所庁内関係各課からの顔合わせを含めた事業内容研修。コーディネーター配置事業の連携先にもなるため、コーディネーターも参加可としている。〈平成23年度、平成24年度、平成25年度実施〉

○茅ヶ崎市地域福祉関係職員研修会（市社協主催）

〈平成22年度〉

地域福祉における「連携・協働」の必要性を確認し、個人情報の活用から、他機関、住民による地域福祉活動団体等との情報共有や役割分担についての研修を開催。

開催日		内容
3月2日	第1回	講義：連携・協働に向けて 地域福祉における連携協働とは/先進事例の紹介と分析 個人情報の誤解を解く ワーク：連携・協働に向けた相互理解のためのワークショップ 講師：田園調布大学人間福祉学部社会福祉学科教授 村井祐一氏
3月11日	第2回	講義：小地域を基盤とした連携・協働に向けて 地域アセスメントと住民交流ワークショップ 地区福祉計画など、地域福祉推進のためのPDCAサイクル ワーク：個別ケースを事例にした地域ケアシステム（連携）のあり方検討 講師：田園調布大学人間福祉学部社会福祉学科教授 村井祐一氏

〈平成25年度〉

住民のたすけあいを最大限活かしながら、要援護者を支えていく方法を学ぶ研修を開催予定。

開催日	内容
3月25日 （予定）	テーマ：住民と関係機関の協働によるたすけあい起こし 講師：住民流福祉総合研究所 所長 木原 孝久 氏

